



6
2023/15



船岡山とその周辺
エリアの魅力を余す
ところなくご紹介!

「FUNAOKA」サイト
はこちらから→



“あの時の光景”を覚えていますか？

左:中川トンネル
右:柵野堰堤(賀茂川)

「健康長寿のまち・北区」
応援キャラクター
キタエちゃん

今こそ見詰め直す災害危機

賀茂川の清流や北山杉の山並みなど、北区ならではの自然は、大雨が続くと、河川の氾濫や土砂崩れにつながる場合があります。平成30年台風21号が接近した際には、猛烈な風により多数の樹木が電線を巻き込んで倒れたため、復旧までに時間がかかり、山間部では1週間以上停電した地域もありました。また、過去(昭和10年)には、賀茂川が氾濫し、上賀茂地域一帯が浸水したこともありました。近年は雨の降り方が変わってきており、全国的に「100年に1度」や「観測史上初」と言われるような大雨による被害が発生しております。

過去の災害を振り返り、私たちがどのように備えればよいか、災害を経験したみなさんのお話を聞きました。



平成30年7月の豪雨の際には、長期間にわたり避難所を開設することとなり、役員がシフトを組んで対応しました。避難所の運営については、事前に用意していたマニュアルが役に立ちましたが、必要なものが全てあるわけではありません。避難所においては避難された方全員で避難所を運営するという自覚を持ち、普段より災害時に必要なもの(飲料水、食料、常備菜等)を準備し、災害に備えてください。
(北区自主防災会連絡会 会長 白瀧 雅章さん)



自然災害は、事前に予測ができる台風だけでなく、線状降水帯(*)による大雨など予測が難しい場合もあり、どんな場所でどんな被害がいつ発生するか分かりません。北消防団員は、災害の発生に備えて、日夜消防団活動を行っています。
(北消防団 団長 川勝 正彦さん) (*線状降水帯とは、次々と発生する発達した雨雲が線状に延び、数時間にわたってほぼ同じ場所で、非常に激しい雨が降り続く状況のこと。)



自然災害の頻発やコロナ禍等の社会環境の変化により、それぞれの学区の防災対策は刷新してゆくことが求められています。それに加え、自主防災会などの支援のもと、各家庭で食料や水の準備やいざという時の行動予定を立てておくことが大切です。
(柵野自治連合会 会長 西村 淳暉さん)

同じような災害が起きた時、どうするべき？

水害

水害ハザードマップを確認して、自宅の位置を確認しましょう。
予想される浸水の深さなどに応じて、安全に避難できる場所を決めましょう。
線状降水帯による大雨の発生が予測される場合は、気象庁が「顕著な大雨に関する気象情報」を発表しますので、その後の長く続く大雨に注意しましょう。

地震

北区に最も大きな被害をもたらすと考えられる「花折断層」で地震が起きると、最大震度7の揺れにより建物の倒壊、断水、停電が発生することが想定されています。
地震用のマイ・タイムラインを作り、食料の備蓄や「いつ」「何をやるのか」をあらかじめ決めておきましょう。

土砂災害

北区内の10学区(上賀茂、大宮、鷹峯、衣笠、金閣、紫野、中川、小野郷、雲ヶ畑、柵野)には、土砂災害警戒区域が存在しています。土砂災害ハザードマップを確認して、自宅の位置を確認しましょう。
また、警戒区域に該当しない場合でも、山や崖のそばでは土砂災害が発生する場合があります。

京都市ハザードマップ



京都市マイ・タイムライン(*)



※災害に備えて自分自身がとるべき行動をあらかじめ決めたもの。

問合せ 地域力推進室 防災担当 432-1199